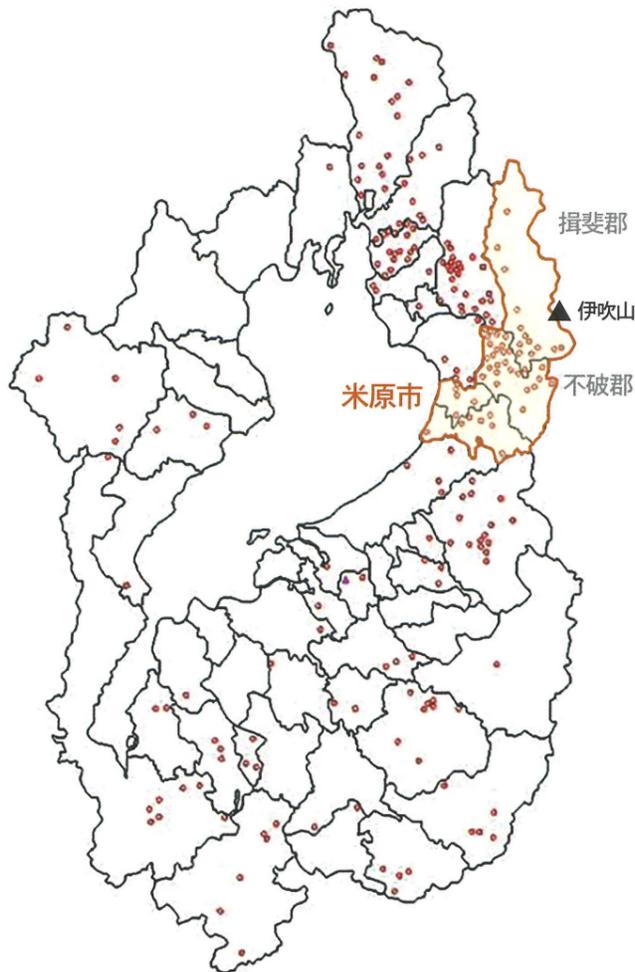


# 伊吹山への感謝

太鼓踊りは、その数と広範な分布域において他を圧倒する、江戸時代以降の近江を代表する民俗芸能です。1993年の調査では、太鼓踊りが伝承されていた地域は218か所を数え、当時、すでにその大半が廃絶していて、踊っていたのは二割に過ぎませんでした。そのなかで、湖北地域（米原市・長浜市・彦根市鳥居本地区）に、全県の約60パーセント（132か所）が集中し、さらに旧坂田郡（米原市・旧長浜市・彦根市鳥居本地区）で27パーセント（58か所）を占め、旧山東町・旧伊吹町（米原市）ではほとんどの集落で踊られていました。さらに、湖北地域に接し、伊吹山地とそこから広がる濃尾平野の西端縁辺部の岐阜県揖斐・不破2郡でも踊られています。湖北を潤す姉川と天野川、西濃の大河揖斐川は伊吹山を水源としています。伊吹山をはさんで太鼓踊りの文化圏が展開しています。



滋賀県の太鼓踊り分布図  
(かつて踊られていた場所を含む)



大野木ホーロー踊り(大正2年)



琵琶湖と水の水辺景観—祈りと暮らしの水遺産

JAPAN HERITAGE SHIGA・BIWAKO



## 太鼓踊りの案内

- ①朝日豊年太鼓踊  
期 日：毎年10月上旬の日曜日  
奉納神社：八幡神社（米原市朝日）
- ②井之口太鼓踊  
期 日：毎年8月15日  
奉納神社：若宮八幡神社（米原市井之口）
- ③伊吹山奉納太鼓踊  
期 日：5年に1度 10月第1日曜日  
※次回は2020年  
奉納神社：三之宮神社（米原市上野）
- ④八幡神社太鼓踊附奴振  
期 日：5年に1度 9月23日  
※次回は2019年  
奉納神社：八幡神社（米原市春照）
- ⑤大野木豊年太鼓踊  
期 日：毎年10月体育の日前後  
奉納神社：八相宮（米原市大野木）

## 米原市 構成文化財④

# 朝日豊年太鼓踊 および伊吹山麓の太鼓踊と奉納神社

日本には世界に誇る「たから」がたくさんあります。文化庁は、この歴史的魅力にあふれる地域の「たから」たちをさらに磨き上げるべく、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」に認定し、国内に、そして世界に発信していく事業を支援しています。

滋賀県と大津市・彦根市・近江八幡市・高島市・東近江市・米原市・長浜市が申請した「琵琶湖とその水辺景観—祈りと暮らしの水遺産」は、平成27年に文化庁から「日本遺産」として認定されました。

日本遺産を構成する文化財として、米原市からは「伊吹山西麓地域」、「東草野の山村景観」、「醒井宿」および「朝日豊年太鼓踊および伊吹山麓の太鼓踊と奉納神社」の4つが選ばれています。

問合せ先：日本遺産米原地域協議会事務局

米原市経済環境部 商工観光課

TEL 0749-58-2227

米原市教育委員会事務局 歴史文化財保護課

TEL 0749-55-4552



# 連携する太鼓踊

朝日や井之口が所属する米原市北部の大原地域(旧大原荘)では、姉川の分水「出雲井」を共通の用水源とする16か村の共同意識が高く、太鼓踊も地域の総鎮守・岡神社において合同で踊られたのが特徴です。村々によって歌詞や踊りの展開に工夫を凝らしました。



※総社・岡神社(岡田)

## 朝日豊年太鼓踊

国選択無形民俗文化財

朝日では、多くの集落で踊られなくなった昭和22年以降も途切れることなく伝承されてきました。赤い緋小手とカルサンの伝統衣装をまとい、締め太鼓を腹に付けた大人と子どもが、笛や鉦の音に合わせながら練り歩く、八幡神社までの道行き。神社に到着すると境内で、円陣をつくり、太鼓を打ち鳴らしながら踊りが奉納され、ゴザが二条敷かれて緩の踊りが踊られます。その起源は、古代、大原郷の開墾や、賤ヶ岳の戦いから始まったとする説もあります。



※奉納神社：八幡神社(朝日)



## 井之口太鼓踊

市指定無形民俗文化財

起源は、約300年前の江戸時代中ごろとされます。かつて雨乞いの際に、地元の氏神・若宮八幡神社で足揃えを踊り、総社岡神社でほかの集落とともに本踊りをして、再び氏神へ戻って笠破りを踊ったそうです。大原地域の太鼓踊りでは、地元の氏神で雨乞いをして返礼踊をする場合と、氏神と総社双方です



る場合、岡神社で雨乞いをして、氏神で返礼踊をする場合などがあつたようです。

※奉納神社：若宮八幡神社



「踊歌 山西十三邑(郷里荘)一所踊」  
(伊夫岐神社文書/元禄三年(1690年))

横山をはさんだ旧長浜市北東部郷里地域も姉川の水利を利用して、共同で水源の伊夫岐神社(伊吹)に雨乞い踊りを奉納しました。伊夫岐神社は、伊吹山の水神を祀ります。

## 伊吹山奉納太鼓踊

上野/県選択無形民俗文化財

伊吹登山口に鎮座する三之宮神社の秋祭りで5年に1度踊られます。江戸時代、日照りが続くと、村人は神社に参集し、早朝から夕暮れまで雨乞い祈願をしました。さらに、山中の悉地院・松尾寺・小高野・高屋などの聖地に三日三晩参籠し、ときに、全員が白旗・松明を持って山頂の弥勒菩薩前に集まって、柴を刈り取って積み上げ、火を焚いて、太鼓や鉦を打ち鳴らし、片足を高く上げて「雷踊り」を踊って、天に降雨を祈りました。そのようすを復元した「大松明」が先導をつとめます。



※奉納神社：三之宮神社



## 八幡神社太鼓踊 附奴振

春照/県選択無形民俗文化財

雨を祈った山伏や法印が参加し、寺社奉行は昭和40年頃に村人の発案で加えられました。道行の最後をいく大団扇は、かつて白布で太鼓打ちの背中にくくりつけ、前後に体を振って踊られました。風を起し、雨を呼ぶ趣向です。宿場町に由来する奴振りは、明治以降に人目を驚かす趣向として加わりました。昭和42年からは、全国的にも珍しくお腹に絵を描くようになり、小粋で見栄を飾った奴振りは踊りの華です。お礼の踊りは、村人の娯楽で、毎回、工夫と変容が加えられました。



※奉納神社：八幡神社(春照)

## 大野木豊年太鼓踊

県選択無形民俗文化財

干ばつに悩まされていたとき、八相大明神に雨乞い踊を奉納したのが始まりと言われ、寛政二年(1791年)に雨乞いをして、翌年に返礼踊を奉納した記録が残されています。雨乞いは、集落の東の大峰山山頂や山麓の大滝神社でも行われました。大野木の太鼓踊りは白い鉢巻き姿で、シャギリの節とともに、隣接する岐阜県不破郡関ヶ原町や垂井町と共通します。かつて踊られたホーロー踊りは西美濃地域に伝わり、大野木は東へ太鼓踊が伝わる窓口でした。



※奉納神社：八相宮

